第 66 回 国連女性の地位委員会（CSW66）報告会　（2022 年 6 月 10 日）

・日時　　2022 年 6 月 10 日（金）14:00 ～ 15:45
・場所　　オンライン配信（Zoom）
・プログラム　1.　堀内　光子　　（アジア女性交流・研究フォーラム 理事長）
　　2.　森　　友里歌さん　（北九州市立大学大学院国際環境工学研究科）
　　3.　大村　昭子さん　　（北九州市危機管理室　防災連携担当係長）
　　4.　加藤　尊秋さん　　（北九州市立大学国際環境工学部　教授）
　　5.　鄧（テン）　心怡（シンイ）さん　　（台中市政府社会局）
・参加者　　60 名（オンライン５８名・会場視聴２名）

(公財)アジア女性交流・研究フォーラムは、国連経済社会理事会（ECOSOC）より与えられた協議資格に基づき、毎年、国連女性の地位委員会（CSW＝Commission on the Status of Women）に参加しています。 CSW は、毎年 2 ～3 月頃の 2 週間の期間で、米国・ニューヨークの国連本部にて開催され、ジェンダー平等と女性の地位向上を目的とした会議です。第 66 回目の開催となる 2022 年は、3月 14 日～3月 25 日までの１２ 日間、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が取られる中、ニューヨークにてハイブリッド形式(主にオンライン）で開催されました。

CSW66 について 【アジア女性交流・研究フォーラム 理事長堀内 光子】

閣僚級円卓会議などが行われた本会議の今年の優先テーマは、「気候変動、環境及び災害リスク削減の政策・プログラムにおけるジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメントの達成」です。災害や紛争、悪環境の中で女性が暴力やリスクを被る場合や、さらにケア労働の負担増などの女性への不平等などの現状解決のために必要なことは、政策決定過程などの場でジェンダ―平等を実現し、 女性のリーダーシップをどう高めていくかであり、さらに災害リスク削減のためのジェンダー別の統計データの重要性の議論が行われ、最終合意が採択されました。 日本は災害大国ですが、被災地等でのジェンダー平等のための視点が足りておらず、意思決定の立場にもっと女性を増やす必要があり、政策全般に関わる全ての分野に、ジェンダー主流化や女性のエンパワーメント推進をより強化していくことも必要です。

また、レビューテーマは「変化する仕事の世界における女性の経済的エンパワーメント（第 61 回 CSW 合意結論）」についてで、女性の教育や技能開発の強化、インフォーマル・ワーカー（非公式労働者）の増加、移民労働者の問題への提起や発信がなされました。

KFAW が主催した CSW66 のパラレルイベントの登壇者より、パラレルイベントで発表した内容について報告がありました。

【北九州市立大学大学院・学生/森友里歌さん】

NPO として取り組む竹林保全活動の紹介や、女性のリーダーシップ論について発表しました。ジェンダーの壁がある今の日本の社会で女性自身も消極的になってしまう傾向があり、女性がリーダーシップを発揮するためには、自己肯定能力の形成と多様な経験が必要であり、大切になってきます。

【北九州市危機管理室/大村昭子さん】

男女共同参画の視点で防災業務に携わる立場として、東日本大震災時の避難所生活の際、多くの女性が感じた様々な不平等や問題があり、北九州市では過去の事例から学び、防災施策の方針決定過程において女性参画を拡大した結果、現在は危機管理室や消防局など災害マネジメントの第一線で女性職員が増えてきています。

【北九州市立大学国際環境工学部/加藤尊秋教授】

東日本大震災で一般市民が経験したことを調査し、特に市民の体験伝承活動において、男女間で災害体験の共有の仕方や種類、頻度、また将来の災害への備えに対する態度に若干の違いが見られた特徴を紹介しました。

これらの社会調査から統計データを作成し、被災地での困った経験を女性自身が伝承し、共有していくことも現状把握や改善をする上で大切です。

対談

【台中市・鄧心怡さん-KFAW 理事長・堀内光子】

台中市が主催した、ＣＳＷ６６のパラレルイベント「アジアにおける官民連携・ジェンダー平等の実現に向けて」に、当財団理事長の堀内が登壇いたしました。今回は、その縁で、台中市政府社会局の鄧心怡さんをお招きし、オンライン対談を行いました。

２人は、今後も CSW への参加や今回のようなイベントを通じて、地方都市が互いに学びあってジェンダー平等を実現していきたいと話しました。